

---

# 中2病患者が異世界に行って完治するまで

もこた

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

中2病患者が異世界に行つて完治するまで

### 【NZコード】

N8090Y

### 【作者名】

もじた

### 【あらすじ】

異世界にいってもひつよ

少女ティファルのにより人生が壊された青年・・・白神 迅。

そして異世界で生き延びるために渡されたたつた一つの能力・・・

・・・【create】

殺伐とし荒廃した世界で必死に生き抜く青年の伝記である。

加藤悠太の妄想を含んでます。

## 01 感2患者の明晰夢（前書き）

皆様始めまして。

今回初めてこの作品を投稿をせて頂くもいたです。

まだ文章を作ることに慣れてないので

誤字・脱字や意味不明、などが多くあると思います。

その時はご指摘していただけると嬉しいです。

それではこれから生暖かい目で見守ってください。

どうぞよろしくお願いします。

# ある末期中一病患者が夢を見た。

夜空が綺麗でどこかの美術家が描いた神秘的な世界に少女が白いイスに腰を掛けていて紅茶を飲んでいた。

「まあ見てないで座つてくれ、少しばかり話があるから」

え  
?  
・  
・  
・  
あ  
・  
・  
・  
あ  
あ  
・  
・  
・  
・  
・

和の名前曰く、一ノ川、春の名前曰く、

ティファルはポカンと沈黙した後くすくすと笑い。

「仁君……君は異世界に行こうで貰いたい。でが行こうで貰ひよ。」

ティがあるな・・・・!

「まあそつとられて仕方が無いだろ、だけど遅かれ早かれ迅君は

少し考え込むような仕草をとつた後。

「行くつゝたつて異世界に何しにいきやいいんだよ?」

「それも遅かれ早かれってことで、じゃあそろそろだから、頑張つてね？」

そして最後に嫌味つたらしく笑い・・・。

「加藤悠太君」

「んな！？・・・それ・・・俺の・・・なま・・・え・・・

・

そこで俺の夢は終わった・・・。

実に心地の悪い夢・・・。

夢から覚めたその世界は実に・・・・・氣分の良い世界だつた。

## 02 中2病者の始めての戦闘（前書き）

いきなり悠太君が武器初心者とは思えない動きをしていました。・・・

自分の表現力の無さに嘆泣しました。

意識が朦朧とする中で悠太は。

「とつま今北産業を自分に・・・・・

- 1・夢
- 2・少女
- 3・強制異世界

「うん、イミワカンネ、つか夢なら覚めたらいつも通りの心地良いベッドの中で包まつてんだわ」

必死に自分に言い聞かせる。

もちろん数匹のわんちゃん（どう見てもオオカミさんです本当にありゅ）が俺の周りを徘徊する姿なんて見えません。

スンスン・・・スンスン・・・

オオカミが自分の体のにおいを嗅ぎついでやら食せる物かを定めてるらしい。

「・・・・・・・（やべえやべえええ！――！、なになに！？俺はこのままオオカミの餌になるのか！？、何だよ！作者！前回の話の最後に気分の良い世界って書いてあつたろ！――、なにいきなり殺させようとしてんだよ！――）」

こう誰に向けたかもわからない悪態を心にしつきながらもじっかりと死んだふりを透そうとするも。

スンスン・・・ベロボ・・・

顔の周りには数匹のオオカミが舐めまくってベトベトになる、その中には悠太の冷や汗も含まれていた。

そしてアラカリは意を決したよ。は您方の耳を

ガリツ！！

悠太の耳から血がボタリボタリと垂れてくる。オオガミはその声に驚き少し後ろに下がつてから戦闘態勢に入り牙を剥き出し喉を鳴らす。

グルルルウウウウウウ

「」のオオカミ共・・・・・マジで葬つてやうつか・・・・・ーーー」といつて無駄な威嚇をしたところで意味は無く。

ガアアアア！！

「ひつ！」

一匹の咆哮に圧された悠太は一気に弱気になり怖気づいてしまう。周りを見渡しても使えそうなものは無い、ポケットに手を入れて何か入っていないか探る。

## 無糖ガム

## 攜帶電話（電話帳4件登錄）

小型懷中電灯  
七つ道具

携帯電話がチカチカと光っている、この状況で確認しての余裕は無いが送信者を見た瞬間に受信BOXを見る。

From テイフル

# Sub 異世界による身体能力補正と能力追加について

## 本文

## 身体能力補正について

正直に語ると、彼には無い元強者（ハーフ）

「ティファルつつかええねええええ！－！－！－！」てか顔文字書く  
なよ！むかつくな！－！－！－！」

下にもまだ文が続いているので高速で矢印の下を押しまくる。

## 能力について

今、白神（笑）君は用意させてもらひた能力はひとつ【connect】っていう能力ね。

まあ呼んで字の「」とく創造する」ていうことが出来る能力ね。

つとなんか注意事項あつたはずなんだけど忘れちゃつた、思い出し

たらまた連絡するよ。

「ティファル…………なんつか…………適當すぎんだろ…………、

「だけどこれなら・・・・！」

頭の中で大まかな構想をする・・・・。形は日本刀・・・刀身は真っ黒で・・・ほとんどの物が切れるような刃。

簡単な物になつてしまつたがその場しのぎには十分使えるほどの武器を頭の中で作り上げる。

それを両手で空を握つた後に実体化させる・・・少し手間取つたがしつかりと握つている。

今はまだ薄つすらとしか見えないがだんだんとそれは姿を見せる。

「本当に出てきた・・・・・よ・・・・・よし・・・・・」

深呼吸をした後、口元を吊り上げて無理に少しだけ不気味に笑い・・・

「さあ・・・・・犬つじいろ・・・・・俺の闇の餌食になりな・・・・・」  
田の前にいたオオカミにその異常なまでに軽い刀を振り下ろす。黒い刀身はオオカミの胴体を切りつける、そしてそこから流れ出るようく血が噴出す。

キヤイン!

仲間がやられたことにより他の仲間たちがそろつて飛び掛つてくる。

まずは田の前にいる二匹。

「連閃・・・・・五月雨・・・・・」

素早く一匹田を縦に両断した後、すぐさま一歩後ろに下がり居合いの姿勢を取り一匹田を切り捨てる。

しかしそんなことをしていると後ろから襲い掛かってくる二匹に意識が行くはずも無く。

「後ろは無理だろツ・・・・・！」  
背中への攻撃を覚悟した瞬間。

「ウォーターガン！！」  
すぐ後ろで水が勢いよく飛び散りオオカミ三匹が吹っ飛んでいくのが見える。

ギャウン！！

「いやー、また変なのが森に迷い込んだね～」

「・・・・・だ・・・・・誰だ・・・・？」

そこに立っていたのは真っ青の髪の毛に凜とした顔つきをした女性が立っていた。

「誰だ？はないでしょ？、人の森に勝手に入ってきたおいで  
「あ・・・・・ここってあんたの森だつたの？、それはすまないなす  
ぐここから立ち去るとしよう」

実のところ逃げたいだけだつた、いきなり水を高速で発射して生物を飛ばすような人物と関わりたくないだけだつた。

「そつちは森の最奥で私の家があるところよ？」

「・・・・・・

黙つて反対方向に進むと。

「そつちは入つたら絶対に抜けられない毒沼があるけど？」

「・・・・・抜け道を・・・・・教えてくれないか・・・・・

「つふふ、いいわ、それよりあなた血が出てるみたいだけど

「ああ、さつき噛まれた時のやつ？」

「もしかしたら病気もちのウルフだつたかも知れないけど私の家で

調べとく？」

悠太は少しの間を空けずに、ハツキリと。

「よろしくお願ひします！！」

「あなた面白いのね、私はユアスっていうの、ユアス・ケルネイト  
よ」

「かと・・・・・白神迅といふ・・・」

間違つて本名を出しそうになり慌てて言い直した。

「？、変わつた名前ね？、これからよろしくね迅」

「ああ、よろしく頼む」

二人は握手をした後にユアスの家へと向かつた。

悠太はこの後この世界で生きていくことがどれだけ困難な事かを思  
い知ることになった

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8090y/>

---

中2病患者が異世界に行って完治するまで

2011年11月24日17時57分発行